

# 徳島で暮らす外国人日本語学習者への授業実践

—生活・文化に親しむために—

尾場 森\*, 大道 真紀\*, 田中 大輝\*\*

(キーワード：生活者としての外国人・授業実践・生活・日本文化)

## 1. 「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

「生活者としての外国人」とは、だれもが持っている「生活」という側面に着目して、我が国において日常的な生活を営むすべての外国人を指すものである<sup>i</sup>。

文化庁が平成19年度から実施している「生活者としての外国人」のための日本語教育事業は、日本国内に定住している外国人等を対象とし、日常生活を営む上で必要となる日本語能力等を習得できるように、日本語教育に関する取り組みの支援や研修等を実施することにより、日本語教育の推進が図られることを目的としている<sup>ii</sup>。日本語を使って自立した生活を送ることができるようにすることを目標とした背景には、日本に在住する外国人数の増加や、日本国内の日本語学習者数の増加が挙げられ、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容・方法の十分な確立と開発が課題となっている<sup>iii</sup>。

平成28年度に行われている事業は次の4点である<sup>iv</sup>。

- 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の実施を中心とした「地域日本語教育実践プログラム(A)」
- 多様な機関等との連携・協力を図り、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の体制整備を推進する「地域日本語教育実践プログラム(B)」
- 地域公共団体等に対して日本語教育に関する専門的知見を有する者を派遣し、指導・助言を行う「地域日本語教育スタートアッププログラム」
- 地域日本語教育を推進する中核人材に対する「地域日本語教育コーディネーター研修」

## 2. 徳島県に類する在留外国人数を持つ他県の取り組み

徳島県は、平成28年6月末の時点で、在留外国人数が5,203人である。これは、47都道府県の中で41番目

であり<sup>v</sup>、他の都道府県に比べると決して多い方ではないが、外国人散在地域として、様々な課題と向き合い、その解決に取り組んでいる<sup>vi</sup>。そこで、本節では、徳島県の次に在留外国人数が多い岩手県(平成28年6月末の時点で6,054人)、および、徳島県の次に在留外国人数が少ない佐賀県(平成28年6月末の時点で4,819人)における日本語支援の取り組みをまとめ、徳島県の支援のあり方を考察していく。

### 2. 1 岩手県内の取り組み

#### ① 岩手県国際交流協会について<sup>vii</sup>

岩手県国際交流協会は、県民の国際理解を深め、国際協力思想の高揚を図ると共に、地域の活性化を図り、もって物心とともに豊かな郷土岩手の建設に寄与することを目的とし、平成元年10月に設立された。いわて県民活動交流センター(アイーナ)を国際交流・協力活動の拠点施設として、業務運営を行っている。

主な事業として、日本語教室や日本語サポーターの育成等の日本語学習支援、奨学金制度による外国人県民の生活支援、医療健康子育てなど生活情報の提供がなされている。国際交流・国際理解に関する事業としては、教材・民族衣装・楽器・玩具などの物品の収集貸出や情報の提供、交流会イベント「世界フェアトレードデイ」の開催、人材ネットワーク・通訳や翻訳のサポーターの登録等がある。

#### ② 奥州市国際交流協会について<sup>viii</sup>

奥州市国際交流協会は、外国人市民の日本語学習の場としての「日本語教室」、外国人市民が安心して出産・育児ができる環境作りを支援する「外国人ママふれあいサークル」を運営するなどして、外国人市民が自然に日本の暮らしに溶け込んでいけるような工夫を行っている。また、在住外国人が自ら市民に母国文化を紹介する「外国人市民による「世界の文化を知ろう」講座」、外国語指導助手や国立天文台外国人研究者が、2ヵ月に一度、小学校1～3年生を対象に、国語・社会・算数・理科を英

\*鳴門教育大学大学院言語系コース(国語)

\*\*鳴門教育大学人文・社会系教育部

語で教える「プレップ for イングリッシュ」を実施するなどして、在住外国人の社会参加の手助けも積極的に行っている。

③ 「生活者としての外国人」のための日本語教育事業  
岩手県内では、表1のように、これまで3年度に渡り、文化庁の「生活者としての外国人」のための日本語教育事業の委託を受けている。

表1 これまでに岩手県内で行われた、文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業」<sup>※</sup>

年度	事業部門	委託団体	講座名・取組名
平成22	日本語教室設置運営	日本語教室いわて「和」	日本語教室いわて「和」日本語講座
	日本語教室設置運営	陸前高田市国際交流協会	日本語教室
	日本語指導者養成	盛岡情報ビジネス専門学校	日本語指導者養成
平成23	日本語教室設置運営	日本語教室いわて「和」	日本語講座（託児有り）
	日本語教室設置運営	陸前高田市国際交流協会	日本語講座
平成24	地域日本語教育実践プログラム(A)	日本語教室いわて「和」	地域と共に歩む「いわて和」日本語教室事業

## 2. 2 佐賀県内の取り組み

### ① 佐賀県国際交流協会について<sup>※</sup>

佐賀県国際交流協会は、佐賀県内在住外国人の支援、県民の国際理解・国際交流促進のため、平成2年2月に設立された。佐賀工商ビルにある佐賀県国際交流プラザを拠点とし、「国際理解・啓発事業」「国際交流・協力推進事業」「多文化共生推進事業」を主な柱として各種事業を実施している。

「国際理解・啓発事業」には、情報誌の発行、ブログ・Facebook等を活用しての情報収集・提供、国際交流プラザ利用促進等がある。「国際交流・協力推進事業」では、国際交流団体等への助成、在外県人活動への支援等を行い、「多文化共生推進事業」でも、日本語グループ支援、

ボランティア啓発・支援に取り組むと共に、外国人の相談窓口を設けるなどの活動に取り組んでいる。

### ② 佐賀県日本語学習支援カスタネットについて<sup>※</sup>

佐賀県日本語学習支援カスタネットは、日本語のわからない県内在住外国人が日本語を学ぶことで、快適な生活を送ることができるようにすること、佐賀県に住む日本語がわからず学校の授業についていけない外国につながる児童・生徒が、等しく日本語支援が受けられる日本語サポート体制作りをすることを目的としている。平成23年1月に立ち上げられた任意団体である。

主な活動は次の3点である。「CASTANETs for Beginners」では、日本語を学ぶことを中心に、空白地域での日本語教室の立ち上げなどを行っている。

「CASTANETs for Kids」では、外国につながる児童・生徒への日本語サポート体制作りをはじめ、こども日本語サポーターのコーディネート及びサポート活動、こども日本語教室の運営などを行っている。「CASTANETs for Supporters」では、佐賀県で生活する外国籍住民の日本語支援の必要性について多くの人の理解を得るために、日本語ボランティア養成講座の実施や、日本語教室で使用するための学習教材の作成などに取り組んでいる。

### ③ 「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

佐賀県内では、表2のように、平成23年度から今年度（平成28年度）まで、6年連続で文化庁の「生活者としての外国人」のための日本語教育事業の委託を受けている。

## 2. 3 まとめ

岩手県、佐賀県、共に国際交流協会等の活動拠点を持ち、国際理解と地域の活性化に努めており、また、日本語教育についても、日本語教室を中心に支援活動が行われている。

岩手県の「奥州市国際交流協会」では、語学教室、外国人のための教室等のほか、地域の歴史などの特性を生かした国際交流活動も行われている。また「日本語教室

表2 これまでに佐賀県内で行われた、文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業」

年度	事業部門	委託団体・実施機関名	講座名・取組名・事業名称
平成23	日本語教室設置運営	佐賀県日本語学習支援カスタネット	初級にほんご集中クラス
平成24	地域日本語教育実践プログラム(A)	佐賀県日本語学習支援「カスタネット」	佐賀県在住の外国籍住民への日本語教育支援事業「サガン日本語モデル・プロジェクト」
平成25	地域日本語教育実践プログラム(B)	公益財団法人 佐賀県国際交流協会 *佐賀県日本語教育支援「カスタネット」と協働での取り組み	佐賀県「生活者としての外国人」に対する日本語教育体制整備事業
平成26	地域日本語教育実践プログラム(A)	佐賀県日本語学習支援「カスタネット」	佐賀県在住の外国籍住民への日本語教育支援事業「サガン日本語モデル・プロジェクト」2014
平成27	地域日本語教育実践プログラム(A)	佐賀県日本語学習支援「カスタネット」	佐賀県在住の外国籍住民への日本語教育支援事業「サガン日本語支援モデル・プロジェクト」2015
平成28	地域日本語教育実践プログラム(A)	佐賀県日本語学習支援「カスタネット」	佐賀県在住の外国籍住民への日本語教育支援事業「サガン日本語支援モデル・プロジェクト」2016

いわて「和」を中心とした各団体における、文化庁からの委託事業「日本語教室の設置運営」では、生活に密着した日本語の学習、日本文化の理解を目的とした取り組みが見られる。

佐賀県の「佐賀県国際交流協会」では、県内在住外国人の支援、県民の国際理解・国際交流の充実を柱とした事業を行っている。それと共に、外国籍住民への生活の支援・日本語サポートを目指す「佐賀県日本語学習支援カスタネット」は、文化庁の委託事業において、日本語教育の実施を中心とした「地域日本語教育実践プログラム(A)」にも、学習教材(日本語カードやその活用のための手引き)の作成等、積極的に取り組んでいる。

### 3 徳島県内での日本語教育の取り組み

#### 3.1 徳島県内の取り組み

徳島県内では、表3のように、平成21年度から今年度(平成28年度)まで、8年連続で、小松島市国際交流協会、JTMとくしま日本語ネットワーク、徳島県、美波町のいずれかが、文化庁の「生活者としての外国人」のための日本語教育事業の委託を受けている。

その成果としては、地域連携の促進、地域で暮らしていくことに対する日本語の不安解消、教材テキストの作製、日本語教室の定期開催の実現、地域日本語教育コーディネーター研修への参加が挙げられる。3.2節で紹介する徳島県国際交流協会(TOPIA)も、平成25年度以降、徳島県が委託を受けた「地域日本語教育実践プログラム(A)」の「徳島で暮らす外国人のための日本語教育事業」に携わっている。

#### 3.2 徳島県国際交流協会(TOPIA)について

##### ① 概要<sup>※</sup>

平成2年6月に県内での国際交流協力推進のために設

立され、県民への多文化理解の促進・情報提供、国際交流団体やボランティアへの活動支援など、県民と外国人が互いに理解し住みやすい環境づくりを行っている。徳島駅ビルクレメントプラザの「とくしま国際戦略センター」を拠点とし、県内在住外国人の生活支援や外国人観光客への情報提供など、様々なニーズに対応できる支援がある。

近年は約70の国や地域からのおよそ5,000人の外国人が徳島県で暮らしている。そのような多様な文化的背景を持つ人々が、互いに理解し尊重しあえる「多文化共生」の社会を目指した、国際化推進による「地域の活性化」と「国際協調」につながるさまざまな事業を行うことを目的としている。

##### ② 主な事業<sup>※</sup>

TOPIAの平成28年度の主要事業をまとめると次のようになる<sup>※</sup>。

- a. 阿波おどり交流事業(阿波おどりの紹介と外国人と県民の混成連を組織する)
- b. 日本語指導ボランティア養成事業
- c. 中高生夏期英語セミナー
- d. 外国人による日本語弁論大会
- e. 徳島国際戦略センター推進事業(情報の受発信拠点として、県内に住んでいる外国人、及び旅行等で来県する外国人を支援する)
- f. 日本語教室の開催(日本語習熟レベルに合わせた各講座を、前期・後期各20回開催している)
- g. 日本語集中講座(日本での生活に必要な学習内容に特化した講座を、年に数回開催している)
- h. その他(ONE WORLD子ども支援事業、外国人生活支援講座開催事業、専門ボランティアスキルアップ事業、多言語相談窓口運営事業、外国人子育てサロン

表3 これまでに徳島県内で行われた、文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業<sup>※</sup>

年度	事業部門	委託団体・実施機関名・採択団体名	教室の名称・講座名・取組名・事業名称
平成21	日本語教室設置運営	小松島市国際交流協会	わかる!できる!!日本語教室
平成22	日本語教室設置運営	小松島市国際交流協会	わかる!できる!!日本語教室2010
平成23	日本語教室設置運営	小松島市国際交流協会	わかる!できる!!日本語教室2011
	日本語教室設置運営	JTMとくしま日本語ネットワーク	親子にほんご寺子屋
	日本語指導者養成	JTMとくしま日本語ネットワーク	外国にルーツを持つ子どもたちのための日本語指導者養成セミナー
平成24	地域日本語教育実践プログラム(A)	JTMとくしま日本語ネットワーク	親子のための日本語教育プログラム
	地域日本語教育実践プログラム(B)	小松島市国際交流協会	外国人生活者の地域順応支援プログラム(わかる!できる!なかよし!日本語教室)
平成25	地域日本語教育実践プログラム(A)	JTMとくしま日本語ネットワーク	徳島で暮らす外国人のための日本語教育事業
	地域日本語教育実践プログラム(A)	徳島県	徳島で暮らす外国人のための日本語教育事業
平成26	地域日本語教育実践プログラム(A)	徳島県	徳島で暮らす外国人のための日本語教育事業
平成27	地域日本語教育実践プログラム(A)	徳島県	徳島で暮らす外国人のための日本語教育事業
平成28	地域日本語教育実践プログラム(A)	徳島県	徳島で暮らす外国人のための日本語教育事業
	地域日本語教育スタートアッププログラム	美波町	(記載なし)



等開設事業など)

### ③ 取り組みの特徴<sup>vi)</sup>

TOPIAの主な取り組みは、「多文化共生」「国際理解」と説明されている。「多文化共生」には、生活相談、日本語教室、夏休み子ども日本語教室、防災意識啓発、日本語指導ボランティアスキルアップ講座、外国人支援ネットワークが含まれている。「国際理解」においては、外国人による徳島県日本語弁論大会、中高生夏期英語セミナーなどが意欲的に開催されている。その他、外国人の暮らしに欠かせない情報の収集・発信の中心として、県内に住んでいる外国人の生活相談に加えて、来県する外国人の観光案内も行っている。

日本語教材の作製にも取り組んでおり、県の情報や行事を取り入れた各種教材が毎年発行されている<sup>vii)</sup>。例えば、公益財団法人徳島県国際交流協会(2016)では、月ごとに買い物のしかた、乗り物の利用、ゴミ出しなど生活に密着したトピックが会話と活動で示されており、学習者の言語に対応できるように、英語・中国語の翻訳版も発行されている。以下で詳述する今回の授業実践においても「11月 病気やけがの時、病院や薬局に行く」を活用した。今年度は、公益財団法人徳島県国際交流協会(2017)として、授業や活動等で使える教材をまとめた冊子が発行されている。

## 4. 本研究の授業実践

本研究の授業実践は、TOPIAの「日本語集中講座」(3.2節参照)の枠を用いて行った。TOPIAでは、多文化共生のまちづくりと、地域で暮らしていくことに対する日本語の不安解消を目標としているため、本授業実践では、地域での生活に関する内容も扱うこととした。特に、日本での生活や徳島県に親しみを持たせること、日本で生活する上で必要なことを学習させること、普段の授業では取り扱われない日本文化の体験的活動を取り入れることを目指した。

### 4. 1. 授業実践 I

#### 4. 1. 1. 単元設定

2.1節で紹介した岩手県国際交流協会では、ホームページ上で、外国人向けの生活情報・生活ガイドとして、多言語問診票を公開している。生活者としての外国人にとって、病院へ行くことは重要な課題であるといえるだろう。そこで本実践では、行ったことのない日本の病院への不安を取り除くことを考え、症状の説明や病院でよく使われる言葉、薬の用法などの、病院でのやり取りを理解し、実際に使用できるようにすることを目的とした。問診票は、文化審議会国語分科会(2012a)等を参考にし、項目を自作したものを使用することとした。会話練

習や配布資料には、公益財団法人徳島県国際交流協会(2016)の日本語訳、英語訳、中国語訳の3種を用いた。

#### 4. 1. 2. 実践の概要

本実践は、平成28年11月20日(日)の午前10時30分から午後0時30分に行われた。授業者は、尾場、大道の2名であった。授業に参加した学習者は12名であり、支援者(日本語支援ボランティアなど)は6名であった。この講座では学習者のレベルは特に指定していない。

本時の授業展開は表4の通りである。

表4 授業実践 I の授業展開

展開	時間	項目	学習内容
1	20分	導入	・診療科の名称と、それに対応した症状のイラストを合わせるゲームを行う。
2	30分	受付	・受付での会話練習を行う。 ・内科での問診票を例にし、実際に記入する。
3	40分	診察	・診察室での会話練習を行う。 ・「昨日から頭が痛いんです。」「様子を見てみましょう。」「お大事に」といった表現を学ぶ。 ・受付、診察を通じた会話練習を行う。
4	20分	薬	・処方箋のことばと使い方、院外処方時の対応を学ぶ。 ・処方箋の情報を読み取るクイズを行う。
5	10分	まとめ	・学習者の国での病院について発表する。 ・本時の振り返りをし、授業評価アンケートに回答する。

#### 4. 1. 3. 実践の振り返り

展開1「導入」では、診療科の名称と症状のイラスト、症状名を使い、その組み合わせを考えるゲームを行った。使用した診療科名は、「内科」「外科」「眼科」「耳鼻科」「歯科」「小児科」「産婦人科」の7つ、病状名は「熱がある」「手術する」「目が赤い」「耳が痛い」「歯が痛い」「子どもの病気」「赤ちゃんが産まれる」の7つ、そして各病状に対応するイラストである。簡単なゲームで学習者の緊張をほぐし、興味を引き出そうとしたが、診療科名と症状名が難しく、意味を十分に理解できていなかった様子が窺えた。漢字に読み仮名は付けていたものの、漢字の量が多かったため敬遠されたようであった。急に授業導入のゲームに入るのではなく、学習者との雑談等により、どの程度の日本語が理解できるのか、学習者の日本語レベルはどれぐらいかを確かめておく必要があったであろう。しかし、症状のイラストを用意し、視覚的に病気などの様子を示すことができたので、最終的には理解を促すことができた。

展開2「受付」では、公益財団法人徳島県国際交流協会(2016) p.19による会話練習と問診票の記入を行った(使用した問診票は本稿末に【資料1】として付けた)。問診票は自ら書いてみようとする学習者が多く、興味を持って取り組んでいたようであった。項目ごとに説明を

行いながら記入する方法を進めた。しかし、記入する作業と、問診票の項目の説明を聞く作業が混在してしまい、学習者から再度説明を求められる場面もあった。先に項目の説明を行い、その後に自由に書いてもらうという方法の方が適切であっただろう。

展開3「診察」では、公益財団法人徳島県国際交流協会(2016) p.19の会話例をもとに、「昨日から頭が痛いんです。」といった文法事項を取り扱った。展開1で使用した症状名カードを利用して、ホワイトボードの「昨日から～んです。」の文字の上から、「耳が痛いんです。」「歯が痛いんです。」のように置き換えることで、学習者に理解を促すことができた。また、支援者の方々が学習者に問いかけてくださったおかげで、自分の症状を詳しく説明する練習が十分にできた。簡単な内容であったため、少し退屈そうに聞いている学習者も見受けられたが、自由に自分の症状を説明するロールプレイを取り入れることで、支援者との会話練習時にアレンジを加えることができ、より高度な会話練習を楽しんでいたように感じる。

展開4「薬」では、「院外処方」「処方箋」の言葉の意味と、薬には用法があることを伝えた。その後、薬の用法について、飲む回数・量・時間等を、クイズを通して知ることができるようにした(本稿末【資料2】参照)。言葉での説明が多くなったため、分かりにくい箇所もあったが、処方箋の袋を持って学習者に見せて回ることで、実感的な理解につながったように思える。興味深そうに見ていたことから、レアリア(realia:実物教材)が効果的であると感じた。処方箋クイズでは、問題部分には「食前」「食後」と書くのに対して、選択肢には「食べる前」「食べた後」のように意図的に文言を変えて書くことで、語句の意味を正しく理解しているか確認できるようにした。誤答した学習者も多かったが、語句の意味を正しく理解させるきっかけにもなったと考える。

授業後には、学習者と支援者それぞれに、授業についての感想をアンケートで回答してもらった。学習者によっては質問項目の漢字が分からず、一人で書けないことが多かった。選択肢も「そう思う」「少し思う」「あまり思わない」「思わない」と曖昧で分かりにくいものになってしまっていた。

アンケート結果からは、診療科名、症状の説明、薬の使い方についてあまり理解できなかった学習者が一定数存在することが判明した。これは、学習者にとって難しい用語を使用して口頭で説明したことが原因であると考えられる。体験活動として行った問診票の記入には、理解できなかったと回答した学習者がいなかったことから、説明だけを行うことは非効率であることが考えられる。簡単な単語やイラストと関連付けながら授業進行をする必要があるだろう。

授業全体を通して、説明が多すぎたことが反省として挙げられる。イラストやジェスチャーを多用するなど、より分かりやすくできる工夫を取り入れたい。クイズやゲーム以外の体験活動を多く取り入れた授業が適切であったように思える。学習者の日本語レベルが不明確であった場合でも、幅広いレベルに対応した資料や発問を準備しておく必要がある。どのような文化的背景を持つ学習者でも平等に学ぶことのできるユニバーサルデザイン型の授業を考案する必要があるように感じた。

学習者に病院とはどういうところなのかというイメージを掴んでもらうことは難しかったが、問診票の記入という減多にできない体験活動を行うことができたことは良かったと思える。医師役との対話活動を通して、症状の説明や問診票の記入等ができたことから、病院でのやり取りを理解し、実際に使用できるようにするという目的は概ね達成できたと言えるだろう。

## 4. 2. 授業実践Ⅱ

### 4. 2. 1. 単元設定

日本文化に親しみをもち、生活を豊かにするという点と、2回目の授業実践日が12月であるという点から、正月文化について取り扱うことにした。その際、前回の問診票記入と同様に、体験活動を取り入れた授業が、学習の定着に効率的であると判断したため、学習者と共に活動できるテーマを考えた。その結果、神社参拝の仕方を教室で練習することと、実際に年賀状を作成することを行うことにした。

### 4. 2. 2. 実践の概要

本実践は、平成28年12月11日(日)の午前10時30分から午後0時30分に行われた。授業者は、尾場、大道の2名であった。授業に参加した学習者は16名であり(このうち、実践Ⅰに参加していたのは2~3名であった)、支援者(日本語支援ボランティアなど)は9名であった。この講座での学習者のレベルは特に指定していない。本時の授業展開は表5の通りである。

表5 授業実践Ⅱの授業展開

展開	時間	項目	学習内容
1	5分	導入	・今日の日付から正月が近いことを想起し、本時の学習内容を知る。
2	25分	正月文化	・餅つきや初夢など、正月文化について学ぶ。 ・参拝の仕方を練習し、体験する。
3	20分	年賀状の説明	・年賀状の表面と裏面の記入例を見て、住所や氏名の書き方のルールを理解する。
4	40分	年賀状の作成	・表面の下書きを行う。 ・裏面の記入を行う。
5	30分	まとめ	・完成した年賀状を持って写真撮影を行い、授業評価アンケートに回答する。

#### 4. 2. 3. 実践の振り返り

展開1「導入」では、カレンダーを使って、12月31日、1月1日などの日付を確認し、「日本のお正月と年賀状の書き方」というトピックを伝えた。授業日である12月11日の日付の提示から話を進めたので、年末年始のことについての授業を行うことを視覚的に示すことができ、学習者の興味を惹くことができた。日付を問いかけることで学習者の日本語レベルを確認しながら始めることができた。また、漢字が読めない学習者にも、「お正月」というマグネットシートを作成し、その下にローマ字表記の読み方を表示することで、学習者の読みを補助できた。

展開2「正月文化」では、年越しそば、歌番組、初詣の様子などを示し、神社参拝のしかたを、写真を提示して説明し、学習者と一緒に参拝の練習をした。写真やイラストを用いたものの、それに加えて、学習者に分かるような説明が必要であったように思える。学習者と一緒に参拝の練習をしてみて、少し体を動かす活動を取り入れることで、学習者の授業意欲を継続させることができたと感じた。正月の文化を説明する際に、実物のおみくじを見せると、学習者は非常に興味深く観察していた。その後、それぞれの国の正月について支援者と会話練習を行う時間を設けた。各国の年末の過ごし方について話し合うなどのような会話活動の時間を設けることで、学習者の発言回数も増え、楽しく満足度の高い授業になった。特に今回のように支援者の人数が多い場合は、ペアでの会話活動も増え、効果的であったように思える。年賀状に書くほど、初夢の説明が学習者の興味を惹くポイントとなったようなので、「皆さんの国でいい夢とはどんな夢ですか？」のような学習者の発言を促す発問もあれば更により授業になると感じた。

展開3「年賀状の説明」では、年賀状の受取人と差出人（自分）の郵便番号・住所・氏名を書く位置を下書き用紙にて確認した。【資料3】のように、自分と相手の住所等で色を分け（自分：水色、相手：ピンク色）、実際に使われている住所を例に説明を行ったため、学習者にとって理解しやすいものとなった。学習者は、日本語教室の先生や、勤め先の知人、学習者同士で年賀状を送ろうとしているようであった。裏については、イラスト例をいくつか用意して示すことで、学習者が真似できるようにした。イラスト例には、展開2で学習した「初夢」や「餅」などを含めることで、学習したことをそのままイラストとして使用できるようにした。

展開4「年賀状の作成」では、色鉛筆、サインペン、筆ペン、カラーペン、シール、スタンプなどを事前に準備し、学習者が自由に年賀状を書くことのできる環境を用意した。作成時には支援者が隣につき、活動はスムーズに進められた。学習者にとって「はがき」「年賀状」「手紙」「手紙を出す」「手紙を送る」「手紙を入れる」等

の用語の意味が難しく、混乱の原因になっていた。授業実践日が年賀状の引受開始日より前であったため、予定していた「年賀状をポストに投函する」活動ができなかったことが残念であるが、全体で完成した年賀状を持って写真撮影を行うことができ、学習者の満足度も高かったことがアンケートからも読み取れた。

授業後のアンケートについては、実践Ⅰのときは漢字が多くて分かりにくかったという反省を活かし、数値に○をつける方法で行った。「どんなことについて勉強したいですか？」という質問項目に対し「勉強してみたい」という回答が多数あったことから、「何を知りたいですか？」のような質問項目にすることが適切であったように考えられる。文を読んで理解して書くことが困難であるため、より簡潔な文を作成する必要があるように感じた。

授業全体を通して、学習者の満足度が高い授業ができた。しかし、正月文化の理解と定着についてはどこまでできたのか疑問が残る。実際に年賀状を書く活動で、年賀状については理解を促すことはできたが、餅つきやおせち料理などの項目は、説明だけになり、習得へと結びついていない可能性が高い。これらの反省から、学習項目を広げ過ぎず、一つ一つを確実に習得させる授業が望ましいように思う。

#### 5. まとめと今後の課題

病院での会話練習や、年賀状の作成など、論題にあるように、生活・文化に親しむという目的は概ね達成できたように思える。病気になった際、非常時の対応は、日本で暮らす外国人にとって必要な知識であり、安心して生活する上で必要不可欠なものである。また、病院のような生活する上で必要なことはもちろん、正月文化のように、日本文化に親しみをもち、生活をより豊かに楽しくしていくことも必要であろう。年賀状の作成や神社参拝など、日本人の日常生活、文化を学び、理解することも、豊かな生活に繋がっていくと考える。実践後の授業評価アンケートにて、授業を終えた学習者がどのようなことに興味を持っているかを知ることができた。学習者からは荷物を送ることや買い物について学習したいという意見が挙がり、より生活に身近な項目が学習の題材になることが分かった。今後は学習者のニーズに応えた授業を実施していくことが必要である。

#### 引用・参考文献

- 公益財団法人徳島県国際交流協会『平成25年度 徳島で暮らす外国人のための日本語副教材 ええじょ！とくしま』, 2014a  
 公益財団法人徳島県国際交流協会『平成25年度 徳島で



- 暮らす外国人のための日本語副教材 とくしままるごと地図』, 2014b
- 公益財団法人徳島県国際交流協会『平成26年度 徳島で暮らす外国人のための日本語副教材 徳島で暮らす12か月(行事編)』, 2015
- 公益財団法人徳島県国際交流協会『平成27年度 徳島で暮らす外国人のための日本語副教材 徳島で暮らす12か月(会話編)』, 2016
- 公益財団法人徳島県国際交流協会『平成28年度 徳島で暮らす外国人のための日本語副教材 おもしろいじょ!とくしま日本語教材例集』, 2017
- 文化審議会国語分科会『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について』, 2010
- 文化審議会国語分科会『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案活用のためのガイドブック』, 2011
- 文化審議会国語分科会『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案教材例集』, 2012a
- 文化審議会国語分科会『「生活者としての外国人」に対する日本語教育における日本語能力評価について』, 2012b
- 文化審議会国語分科会『「生活者としての外国人」に対する日本語教育における指導力評価について』, 2013
- 文化庁文化語部国語課『「生活者としての外国人」のための日本語教育ハンドブック』, 2013
- 吉川巧也・酒巻伸江・林ななみ・元木佳江・田中大輝「徳島で暮らす外国人のための日本語教育―日本での生活をより安全に・豊かにするためには―」『鳴門教育大学授業実践研究』15, 2016, pp.47-56
- (2017年3月8日最終確認)
- (4) 法務省「平成28年6月末現在における在留外国人数について(確定値)」  
<http://www.moj.go.jp/content/001204549.pdf> (2017年3月8日最終確認)
- (5) 公益財団法人岩手県国際交流協会「協会のご案内―協会について」  
<http://www.iwate-ia.or.jp/?p=4-1-about> (2017年3月8日最終確認)
- (6) 公益財団法人岩手県国際交流協会「協会のご案内―協会について―平成28年度事業計画」  
[http://www.iwate-ia.or.jp/cms/media/about\\_us/H28-plan.pdf](http://www.iwate-ia.or.jp/cms/media/about_us/H28-plan.pdf) (2017年3月8日最終確認)
- (7) 奥州市国際交流協会「協会の活動について」  
<http://oshu-ira.com/page-14/> (2017年3月8日最終確認)
- (8) 公益財団法人佐賀県国際交流協会「協会のご案内」  
<https://www.spira.or.jp/about-us/> (2017年3月8日最終確認)
- (9) 公益財団法人佐賀県国際交流協会「協会の事業」  
<https://www.spira.or.jp/work/> (2017年3月8日最終確認)
- (10) 佐賀県日本語学習支援カスタンネット「トップページ」  
[1st.geocities.jp/castanetsnihongo/](http://1st.geocities.jp/castanetsnihongo/) (2017年3月8日最終確認)
- (11) とくしま国際戦略センター「トップページ」  
<http://www.topia.ne.jp/> (2017年3月8日最終確認)
- (12) とくしま国際戦略センター「TOPIAについて」  
<http://www.topia.ne.jp/topia/> (2017年3月8日最終確認)
- (13) とくしま国際戦略センター「TOPIA―事業案内」  
<http://www.topia.ne.jp/topia/project.html> (2017年3月8日最終確認)
- (14) とくしま国際戦略センター「日本語教室のご案内」  
<http://www.topia.ne.jp/docs/2015080700014/> (2017年3月8日最終確認)
- (15) JTM とくしま日本語ネットワーク「HOME」  
<http://jtmhp.la.coocan.jp/index.htm> (2017年3月8日最終確認)

## 引用・参考資料(ウェブページのもの)

- (1) 文化庁「「生活者としての外国人」のための日本語教育事業」  
[http://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo\\_nihongo/kyoiku/seikatsusha\\_kyoiku\\_jigyoo/index.html](http://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/seikatsusha_kyoiku_jigyoo/index.html) (2017年3月8日最終確認)
- (2) 文化庁「「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 地域日本語教育実践プログラム―委託先事業一覧」  
[http://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo\\_nihongo/kyoiku/seikatsusha/](http://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/seikatsusha/) (2017年3月8日最終確認)
- (3) 文化庁「平成28年度地域日本語教育スタートアッププログラム 採択団体一覧」  
[http://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo\\_nihongo/kyoiku/seikatsusha\\_startup\\_program/saitaku.html](http://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/seikatsusha_startup_program/saitaku.html)

## 謝辞

本稿は、平成28年度「教育実践フィールド研究(国語科)」の日本語教育分野の研究実践報告である。実践の場をご提供くださり、授業を行うにあたって多大なご支援をくださった TOPIA の方々、授業の支援をしてくださった方々、学習者の皆様に感謝を申し上げます。

## 注

- <sup>i</sup> 文化審議会国語分科会 (2010) p.2 より引用。
- <sup>ii</sup> 文化庁「[「生活者としての外国人」のための日本語教育事業] (引用・参考資料(1)) に基づく。
- <sup>iii</sup> 文化庁文化語課 (2013) p.7 より引用。
- <sup>iv</sup> 文化庁「[「生活者としての外国人」のための日本語教育事業] (引用・参考資料(1)) に基づく。
- <sup>v</sup> 法務省「平成28年6月末現在における在留外国人数について (確定値)」 (引用・参考資料(4)) の p.4 「【第3表】 都道府県別在留外国人数の推移」に基づく。
- <sup>vi</sup> 3. 2節で紹介する徳島県国際交流協会 (TOPIA) による様々な取り組みのほか, JTM とくしま日本語ネットワークによる読み書き学習講座や保護者のための日本語講座, 県内の民間国際交流団体による各種日本語講座, 鳴門教育大学の学生ボランティアサークル「鳴門教学生日本語教室」など, 県内の様々な機関・団体が支援活動を行っている。
- <sup>vii</sup> 公益財団法人岩手県国際交流協会「協会のご案内ー協会について」 (引用・参考資料(5)), および, 公益財団法人岩手県国際交流協会「協会のご案内ー協会についてー平成28年度事業計画」 (引用・参考資料(6)) に基づく。
- <sup>viii</sup> 奥州市国際交流協会「協会の活動について」 (引用・参考資料(7)) に基づく。
- <sup>ix</sup> 文化庁「[「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 地域日本語教育実践プログラムー委託先事業一覧] (引用・参考資料(2)) に基づく。以下, 表2・表3も同様。
- <sup>x</sup> 公益財団法人佐賀県国際交流協会「協会のご案内」 (引用・参考資料(8)), および, 公益財団法人佐賀県国際交流協会「協会の事業」 (引用・参考資料(9)) に基づく。
- <sup>xi</sup> 佐賀県日本語学習支援カスネット「トップページ」 (引用・参考資料(10)) に基づく。
- <sup>xii</sup> 平成28年度の美波町の採択については, 文化庁「平成28年度地域日本語教育スタートアッププログラム採択団体一覧」 (引用・参考資料(3)) に基づく。
- <sup>xiii</sup> とくしま国際戦略センター「TOPIA について」 (引用・参考資料(12)) に基づく。
- <sup>xiv</sup> とくしま国際戦略センター「TOPIA ー事業案内」 (引用・参考資料(13)) に基づく。
- <sup>xv</sup> TOPIA が行っている主要事業の全体像については, 吉川他 (2016) が詳しくまとめている。
- <sup>xvi</sup> とくしま国際戦略センター「トップページ」 (引用・参考資料(11)) に基づく。
- <sup>xvii</sup> TOPIA が作成した教材については, とくしま国際戦略センター「日本語教室のご案内」 (引用・参考資料(14)) の「とくしま」の日本語教材について (TOPIA 作製・文化庁事業) からアクセスが可能である。



資料

【資料1】問診票

もんしんひょう  
問診票

記入日 ( 年 月 日 )

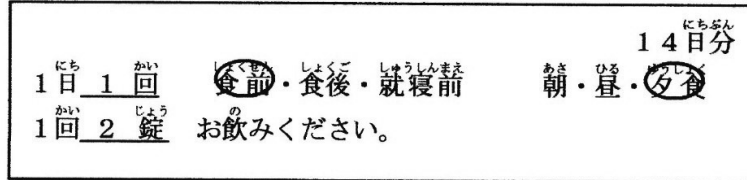
お名前	ふりがな	生年月日
	(性別 男・女)	年 月 日 (才)
連絡先	〒	TEL

以下の項目について、○で囲む、もしくはご記入下さい。

- ① この病院に来るのは初めてですか。 ( はい ・ いいえ )
- ② 以下の症状で当てはまるものに印をつけてください。  
 頭が痛い  熱がある  気分が悪い  吐く・おう吐する・もどす  咳が出る  
 喉が痛い  鼻水が出る  お腹が痛い  寒気がする  その他 ( \_\_\_\_\_ )
- ③ いつ頃からですか。 ( 約 \_\_\_\_\_ 日前頃から )
- ④ 体温を記入してください。 ( \_\_\_\_\_ ℃ )
- ⑤ 上記の症状で他の病院を受診されましたか ( はい ・ いいえ )
- ⑥ 今まで大きな病気外傷あるいは現在治療中の病気がありますか。  
 ( 現在治療中 ・ 過去治療経験 ・ 特になし )  
 (約 \_\_\_\_\_ 年前、 \_\_\_\_\_ (医療機関名) で、 \_\_\_\_\_ を治療しました。)
- ⑦ 現在飲んでいるお薬はありますか。  
 ( なし ・ あり ) ( どのようなお薬ですか。 \_\_\_\_\_ )
- ⑧ 今までにアレルギー、特異体質などはありましたか。  
 ( なし ・ あり ) ( どのようなものですか。 \_\_\_\_\_ )
- ⑨ たばこを吸いますか。 ( 吸う ・ 吸わない )
- ⑩ お酒は飲みますか。 ( 飲む ・ 飲まない )
- ⑪ 妊婦の可能性はありますか。 ( あり ・ なし )
- ⑫ その他、特記事項はありますか。

【資料2】処方箋クイズ

処方箋クイズ



(1) 1日に何回飲みますか

- ① 1回 ② 2回 ③ 3回 ④ 4回

(2) 1回にいくつ飲みますか

- ① 1個 ② 2個 ③ 3個 ④ 4個

(3) いつ飲みますか

- ① 朝食前 (朝ご飯を食べる前) ② 朝食後 (朝ご飯を食べた後)  
③ 昼食前 (お昼ご飯を食べる前) ④ 昼食後 (お昼ご飯を食べた後)  
⑤ 夕食前 (晩ご飯を食べる前) ⑥ 夕食後 (晩ご飯を食べた後)  
⑦ 就寝前 (寝る前) ⑧ いつでもいい

【資料3】相手の住所と自分の住所

